

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	児童発達支援 スマイル北田辺店		公表日	2026年 2月 15日		
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	100%	0%	集団活動や机上活動の人数配分を行い、十分なスペースを確保しています。	活動内容に応じた、より細やかなスペースの区切り方を検討します。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	80%	20%	児童数と職員数のバランスを考慮し、日々の配置を調整しています。	多忙な時間帯において、さらに手厚い体制が組めるよう効率化を図ります。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	80%	20%	マットの敷設や色分け、構造化により、障害特性に配慮しています。	死角の解消や、さらなるバリアフリー化の必要性を再確認します。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	100%	0%	朝夕の清掃に加え、汚れた際も都度掃除を行い、清潔感を保っています。	備品の経年劣化等にも目を配り、常に安全な状態を維持します。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	100%	0%	個室を完備し、休息や集中が必要な際に柔軟に使用できる環境です。	お子様がよりリラックスできるような環境設定を追求します。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	80%	20%	朝礼・終礼でタスク共有や業務改善の話合いを日々行っています。	PDCAサイクルの意識を全職員でさらに高く共有していきます。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%	0%	モニタリングや送迎時の対話、年次アンケートで意向を反映しています。	頂いたご意見を、よりスピーディーに支援内容へ反映させていただきます。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%	0%	終礼や職員会議で自由に意見交換を行い、風通しの良い職場です。	改善した内容の効果を、定期的に再評価する仕組みを強化します。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	80%	20%	同グループ内の他店舗との連携やヘルプ職員からの客観的な意見を取り入れています。	外部機関の定義を明確にし、より公式な外部評価の導入を検討します。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	100%	0%	グループ内、事業所内外のマナー研修や療育研修など、多岐にわたる研修を定期実施しています。	研修で得た専門知識を、全職員が即座に実践できる形へ落とし込みます。
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100%	0%	グループのHPで公表しており、誰でも即座に閲覧可能です。	公表内容が常に最新の状態であるよう、定期的な更新を徹底します。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	100%	0%	6ヶ月毎のアセスメントに基づき、適切な支援計画を作成しています。	お子様の急な変化にも対応できるよう、計画の柔軟な見直しを行います。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	80%	20%	職員間で常に共有し、チーム体制で計画の作成・実践を行っています。	一部の職員に負担が偏らないよう、作成プロセスの標準化を図ります。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100%	0%	支援計画を常に見られる状態にし、日々の療育の指針としています。	計画の意図をより深く理解し、一貫したアプローチを徹底します。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	100%	0%	終礼や支援記録(リトム)を通じて、日々の振り返りを行い、一貫した支援を継続しています。定期的なモニタリングで、グループ独自作成のツールを用いたフォーマルなアセスメントを実施しています。	記録の質をさらに高め、誰が見ても経過がわかるように努めます。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100%	0%	お子様の特性や意欲に合わせ、前向きに取り組める内容を提示しています。	目標達成の基準をより具体化し、成長の見える化を推進します。

の 提 供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100%	0%	多職種の専門的な視点を融合させ、多角的な支援を行っています。	各職種の専門性をさらに発揮できる会議の持ち方を工夫します。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100%	0%	飽きがないよう、多様なプログラムを職員間で話し合い立案しています。	プログラムの目的が「楽しさ」だけでなく「目標」に直結するよう工夫します。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	100%	0%	個別活動と集団活動を、時間やスペースを使い分け両立させています。	お子様のその日の状態に応じた、より柔軟な切り替えを検討します。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100%	0%	朝礼で支援内容や配慮事項を細かく伝え合い、チームで動き出します。	職員の急な欠勤や変更時にも、漏れなく情報が伝わる仕組みを維持します。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	100%	0%	終礼でその日の活動を振り返り、翌日の支援への改善点を話し合います。	成功事例だけでなく、失敗事例の分析もより深く行い共有します。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100%	0%	日々の記録を適切に残し、次回のモニタリングに繋げています。	記録作業の効率化を図り、お子様と向き合う時間をさらに確保します。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100%	0%	定期的なモニタリングを通じ、計画の妥当性を常に検証しています。	保護者様の新たなニーズを、モニタリングの場以外でも拾い上げます。
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100%	0%	児発管を中心に地域の会議へ参加し、職員間で情報を共有しています。	指導員も同席する機会を増やし、地域連携への意識を高めます。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	100%	0%	各関係機関と連絡を取り合い、スムーズな連携体制を築いています。	未連携の機関に対しても、必要に応じて働きかけを継続します。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	80%	20%	支援計画の提供等を行い、お子様が他所でも同じ支援を受けられるよう努めます。	併行利用先とのより直接的な意見交換の場を増やしていきます。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	100%	0%	移行期の児童がいなくても、将来を見越した体制を準備しています。	就学先や進学先へのスムーズな移行のために、引き継ぎ資料を作成し、情報共有を図ります。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	80%	20%	専門的な方から定期的なアドバイスをいただき、支援に活かしています。	外部専門機関（センター等）との連携頻度をさらに高めます。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	100%	0%	お祭りや公園遊びを通じ、地域の方々と自然に触れ合う機会があります。	地域コミュニティへの参加をさらに広げ、事業所の理解を深めます。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100%	0%	連絡帳、LINE、送迎時の対話など、多面的なコミュニケーションを大切にしています。	忙しい送迎時でも、より深い対話ができるよう時間管理を工夫します。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	100%	0%	セミナー開催などを通じ、保護者様の育児負担軽減と情報共有に努めています。	保護者様からのニーズを事前に募り、より関心の高いテーマを企画します。	
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100%	0%	契約時に重要事項を丁寧に説明し、納得いただいた上で開始しています。	法改正等に伴う規約の変更を、随時分かりやすく再説明します。	

保護者への説明等	36	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100%	0%	個別支援計画の案を作成し、事前に確認を頂くプロセスを徹底しています。	保護者様の「本当の願い」が計画に反映されているか、丁寧に確認します。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	100%	0%	計画書の書面の提示とともに、内容を口頭でも詳しくお伝えし、目標の共有を図っています。	専門用語を避け、誰にでも分かりやすい言葉での説明を追求します。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100%	0%	些細な悩みにもその都度職員で話し合い、誠実にお答えしています。	個別相談の時間をより確保できるよう、予約制等の導入も検討します。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	100%	0%	お祭りやセミナーでの保護者交流を促進し、孤独感の解消に努めています。	きょうだい支援についても、具体的なプログラムを今後検討します。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100%	0%	苦情に対し迅速に対応し、上司への報告・組織的解決を図る体制があります。	苦情に至る前の「小さな不満」を早期に察知する感度を高めます。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	100%	0%	SNS、HP、個人LINEを使い分け、活動の様子を生き生きと伝えています。	写真等の掲載におけるプライバシー保護を継続して徹底します。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100%	0%	個人情報を含む書類は鍵付き書庫で厳重に保管しています。	デジタルデータの管理についても、セキュリティ対策を最新に保ちます。
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100%	0%	視覚支援や丁寧な言葉かけを徹底し、お子様の尊厳を守っています。	拡大資料やイラストの活用など、情報伝達のバリアフリー化を推進します。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	100%	0%	地域イベントや近隣へのご挨拶を通じ、地域に開かれた運営を行っています。	地域のボランティア等の受け入れも、安全に配慮しつつ検討します。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	80%	20%	定期的な訓練を実施し、事業所内に掲示して周知しています。	訓練の実施予定や内容を、より積極的に保護者様へも共有します。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	100%	0%	火災、地震、不審者等、様々な災害を想定した訓練を継続しています。	抜き打ち訓練など、より実践的な内容を取り入れ、対応力を高めます。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	100%	0%	契約時および定期的に、緊急連絡先や健康状態の最新化を行っています。	緊急時の対応フローを職員間で定期的にシミュレーションします。
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	100%	0%	食物アレルギーや既往歴を把握し、食事時間の分離等の配慮をしています。	医師の指示書等の活用を促進し、より医療的な安全性を高めます。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100%	0%	安全計画を策定し、それに基づく職員研修を徹底しています。	計画の内容を形骸化させず、日々の活動の隅々まで浸透させます。
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	70%	30%	安全確保のための取り組みを事業所内で実施しています。安全計画は事業所内に掲示し、保護者様に対しても閲覧可能な状態にし、周知しています。	取組内容について、保護者様への詳細な周知を最優先課題として行います。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100%	0%	ヒヤリハットを終礼で共有し、再発防止策を即座に検討・実践しています。	報告が上がりやすい「非難されない文化」をより強固にしていきます。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100%	0%	研修や事例検討を通じて、マニュアルを実情に合わせて更新しています。	更新したマニュアルが全職員に確実に浸透しているか確認を徹底します。
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	100%	0%	同意書に基づき、個人情報の取り扱いについて丁寧に説明しています。	SNS掲載等、変化するプライバシー意識に合わせた同意確認を継続します。	